

大船渡市消防団の活動の概要等について

大船渡市消防団

総務省消防庁

岩手県大船渡市消防団の林野火災への対応

大船渡市消防団は、自らも被災しながら、地域住民の命を守るため、避難の呼びかけや避難誘導、消防隊等と連携した消火、熱源確認や残火処理、夜間の見回り、被害状況の情報収集などの活動に懸命に従事した。【活動期間：2月19日～3月23日、活動人数：延べ3,460人（R7.3.23現在）】

消防団の活動人数

活動期間：2月19～25日
活動人数：延べ1,783人

活動期間：2月25～26日
活動人数：延べ646人

活動期間：2月26日～3月23日
活動人数：延べ1,031人

計：延べ3,460人
(R7.3.23現在)



▲図：岩手県災害対策本部資料より



2月26日、大船渡市綾里地区
(消火活動の様子)



3月23日、大船渡市綾里地区
(残火処理の様子)



2月26日、大船渡市末崎地区
(消火活動の様子)



2月26日、大船渡市合足地区
(中継送水作業の様子)



2月26日、大船渡市合足地区
(消火活動の様子)



3月8日、大船渡市綾里地区
(残火処理の様子)

大船渡市林野火災における消防団の活動の振り返り

※大船渡市消防団への調査結果をもとに作成

消防隊等と連携できる情報伝達体制の構築

- 配備されている通信機器が不足し、迅速な対応が求められる状況では対応が困難。
- 地形により、無線機や携帯電話が使用できず、情報伝達に支障。電波が通じない状況も想定した対策が必要。

大規模火災に的確に対処できる体制の強化

- 現場の状況に応じて、無限水利の活用や中継送水への迅速な対応、早期の退避判断による安全確保といった対応は、地元を熟知し、過去の火災を教訓に日頃から実施している訓練が活かされた。
- 経験が少ない等の理由から、対応できる消防団員に限りがあった。長丁場となれば交代で対応する必要があったため、消防団員の対応力の強化が不可欠。
- 火点が点在していたため、統制のとれた活動が困難であった。
- 地元を熟知した消防団と機動力のある緊急消防援助隊の連携強化が必要。

火災対応に必要な資機材の整備

- 背負い式水のうが対応人員に比して相当数不足し、対応できなかった。
- 防火衣など消防団員の安全管理のための資機材の充実が必要。

自主防災組織等と連携した避難訓練等の実施による地域住民の防火意識の向上

- 各地域の自主防災組織との連携を強化するため、防災に関する座談会などのコミュニケーションの機会や避難訓練を増やし、火災予防の意識向上につながる活動の充実が必要。